

アナログオーディオ&ゆとりライフマガジン

平成 30 年 10 月 20 日発行 (年 4 回刊) 第 15 巻第 1 号通巻 61 号 ISSN1349-595X

季刊・アナログ

analog

2018
AUTUMN
vol. 61

Phile
web

終わりなき「こだわり」を追求

特集

トーンアームを知る

特別インタビュー

小室 等

連続企画

注目カートリッジの「素顔」



ピットインインタビュー

ケイコ・リーさん

〈前編〉

アナログ好きのための

「振動対策」

話題を集めた革新的アームに 改良を加えたMkIIモデル

Text by
角田郁雄
Ikuro Tsunoda

KLAUDIO ARM-MP12 MkII

ピボット式リニアトラッキングアーム

¥1,250,000 (税別)

*写真は自立型専用ベース
「BAS-ARM01」(¥74,000 / 税別)
にマウントしたところ



Profile

KLAUDIOは2013年にアメリカで設立された新進アナログ機器メーカー。同社のARM-MP10 / ARM-MP12は、リニアトラッキングと1ピボットの両方式のメリットを取り入れた、革新的トーンアームとして話題を集めた。Mk IIモデルはその独自の機構はそのままに、アーム部の軽量化など細部の改良が施されている。ARM-MP10 Mk II (10インチモデル)、ARM-MP12 Mk II (12インチモデル)は同一価格でラインアップされている。自立型ベースBAS-ARM01を用いれば、ターンテーブルに取りつけることなく、外づけトーンアームとして使用できる。

Specifications

●型式:ピボット式リニアトラッキングトーンアーム ●スピンドル中心から取付位置中心:298mm ●取り付け孔径:29mm ●本体質量:730g ●付属品:フライトケース、アライメントツール(設置治具)、レーザーツール、取り付け治具、ウェイト、リードケーブルつきヘッドシェル、アジマス調整ツール ●取り扱い:(株)ノア

●本機の概要

ヘッドシェルを
一直線に移動させる

クラウディオイオは、一般的なユニバーサルアームと同様の使いやすさを備える「ピボット式リニアトラッキングアーム」を登場させた。本機は、その12インチアームである。2枚のカーボンファイバー製アームは、角度を変換する平行四辺形を構成し、ヘッドシェルの動きに、敏感に反応し、レコードの外周から内周まで、ヘッドシェルをカットアームと同様、一直線に移動させる。アームの支点となるベース部も、この動作に従って最適に移動する。ゆえに再生中、動きを見ているのも楽しい。まさにメカ中のメカと言いたくなる精密さだ。本機のアドバンテージは、リニアトラッキングだけではない。多種のカートリッジが使えるように、ヘッドシェルは脱着式。複雑に思えるかもしれないが、高さ調整や前後移動も容易に行えるようにしている。愛用プレーヤーに、穴を開けることが難しい場合は、オプションの自立型アームベースBAS-ARM01を使うことができる。

できる。

●音質について
音楽の臨場感を
高めてくれる

試聴では、マイソニックのHyper Eminentを使用。プレーヤーは、ドクトルファイヤル Firebird で、フォノイコライザーは、アキュフェーズ、C-37である。私はこのカートリッジを幾度も使ってきたが、再生してすぐさま理解できたことは、いままでも体験しなかった広大な空間だ。しかもその空間に、オケ/ソロ奏者/歌い手が、その場で歌っているかのようなリアリティを感じた。かなり、高解像度特性を身につけたように実感した。それは、まさにトラッキングエラー皆無の本機の効果だと判断できた。しかも、中低域の量感が明らかに増し、高域も素直に伸びている。調整を追い込むと、聴感上で感じるわずかな付帯音までも、そぎ落とされた感じがし、弱音の再現性がさらに高まる。1・8Ωという超低インピーダンスで、高出力を発生するカートリッジの本来の持ち味が発揮されたように思える。私は

様々なジャンルのレコードを再生したが、総じて言えることは、空間性を含めた高解像度特性と弱音から強音までのダイナミックレンジ特性が拡張されるので、音楽の臨場感を高めてくれることだ。まさに技術が音質に反映されている。

●組み合わせたい
ターミネーブル/カートリッジ

新規にターミネーブルを導入するなら、前述のドクトルファイヤル兄弟モデル、Black Bird 2、Woodpecker 2を推薦する。ウッドキャビネットを5mm厚のアルミ板でサンドイッチした、強固な筐体を構成。無共振のPOM材ブラッターを採用し、本アームが設置しやすい開口部も装備する。

カートリッジには、フェーズメーション、PP-500を組み合わせたい。空間描写が得意で、解像度も高いので、くつきりと音像を浮かび上げる。音の立ち上がりも俊敏だ。この組み合わせで、臨場感を際立ててくれるのだ。

使いこなしのポイント

オーバーハングや
高さ調整を厳密に

本アームは、エアポンプも必要なく、一般的なユニバーサルアームと同じように設置できる。別売の自立型アームベースBAS-ARM01を使用する場合は、平面性の高い、強固なラックやボードが不可欠。自立型アームベースとプレーヤーの水平を合わせることも大切。調整ポイントは、格別に敏感なアームなので、オーバーハング調整や高さ調整を厳密にすることだ。さらに、フォノイコライザーとアースを取り、高いハウリングマージンを確保したい。針圧で、音質は約変する。針圧を細かく変え、最適な音質を追い込みたい。

- ① 2本のアームはカーボンファイバー製。写真はカートリッジ未装着でアームレストのロックを外した状態
- ② 付属のヘッドシェルをつけた状態。コネクター部が可動式で、カートリッジの角度を一定に保つ
- ③ 水準器を2個搭載している。使用カートリッジに応じて、メインウェイトを追加することができる(写真は手前のアームにウェイトを追加している)
- ④ 出力端子はRCA。写真右の筒状の部分で、アームの高さを調節する

